

【数学科】		教科書	改訂版 最新 数学Ⅱ (数研出版)		
数学Ⅱ		副教材	書き込み式シリーズ Study-Up ノート数学Ⅱ (数研出版)		
履修学年	第3学年(木美)	履修形態	必修 選択	履修単位	2単位

学習(到達)目標 (授業を通して、身に付ける力)

- ◇いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分について、「数学Ⅰ」より発展した内容について知識を深め、その技能を習得する。
- ◇知識・技能を活用する能力を伸ばすとともに、数学の良さがわかる。

学習方法 (授業の進め方や工夫点など)

- ◇教科書・授業プリント・Study-Up ノートを計画的に利用することにより、予習・復習を網羅していきます。ただし、数学的な知識や技能の定着のためには、繰り返し行うことが更に必要です。

学習計画 (どのような内容を、どの時期に学習するのか)

学期	単元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	微分法と積分法	微分法	・導関数の意味を知り、関数の増減、極大極小、最大最小を求める。	課題 出席状況、提出物 中間審査	D AC BCD
		積分法	・不定積分や定積分を理解する。また、定積分を用いて面積を求める。	課題学習 出席状況、提出物 期末審査	B AC BCD
二学期	いろいろな関数①	三角関数	・弧度法と度数法、三角関数の基本的性質を理解する。	課題 出席状況、提出物 中間審査	D AC BCD
		三角関数	・三角関数のグラフや特徴、加法定理の意味と使い方、2倍角や半角の公式を理解する。	課題学習 出席状況、提出物 期末審査	B AC BCD
三学期	いろいろな関数②	指数関数・対数関数	・有理数に拡張した指数法則について理解する。また、対数の考え方やグラフ、常用対数について理解する。	課題 課題学習 出席状況、提出物 学年末審査	D B AC BCD

学習評価 (成績評価は、次の4つの観点から行います) 考查点 [70] 点 : 平常点 [30] 点

	関心・意欲・態度(A)10点	数学的な見方や考え方(B)30点	数学的な技能(C)30点	知識・理解(D)30点
評価の観点	様々な式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方に関心をもつとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	事象を数学的に考察し、表現している。また思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることを通し、数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・出席状況等 ・授業中の姿勢、態度	・課題学習での取組 ・定期審査	・ノート、ワーク等の提出物 ・定期審査	・課題 ・定期審査

留意点 (担当者からのメッセージ)

- ◇授業においては学ぶ姿勢が大切です。目標をもって学習に取り組んでください。
- ◇知識や理解の定着に近道はありません。繰り返し復習をし、その過程で理解を深めてください。

【数学科】 数学活用	教科書	数学活用（実教出版）			
	副教材	使用しません（随時プリント配付）			
履修学年	第3学年(木美)	履修形態	必修 選択	履修単位	2単位

学習（到達）目標（授業を通して、身に付ける力）

- ◇数学について、具体例をもとに「身の回りの数学」、「社会生活と数学」、2つの観点から様々な事を学ぶ。
 ◇数学のおもしろさや便利さを体験しながら、数学的な見方や考え方を身に付ける。

学習方法（授業の進め方や工夫点など）

- ◇この授業最大のねらいは、「単に計算問題ができるようになる」ということではなく、数学的に考えることの良さを知り、それを「楽しみ、役立てる」ことにあります。授業を通して、「数学」を理解・実感し、「数学」を活用していく中で、「生きる力」を培ってください。

学習計画（どのような内容を、どの時期に学習するのか）

学期	単元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	既習数学を振り返る①	身の回りの計算・図形	・最終学年である今、これまでに学習してきた数学的知識や技能について、再確認することで定着を目指す。	課題 出席状況、提出物 中間考査	D AC BCD
	身の回りの数学	いろいろな場合の数 数学的な表現のくふう	・操作的、体験的な内容を中心に学習することで、公式や計算をあまり意識せずに数学を楽しみ、親しむ。	課題学習 出席状況、提出物 期末考査	B AC BCD
二学期	既習数学を振り返る②	身の回りの計算・図形	・過去に学習した知識や技能について再確認をし、定着を目指す。	課題 出席状況、提出物 中間考査	D AC BCD
	社会生活と数学 数学の発展と人間の活動	経済と数学 コンピュータと人間の活動 数と人間	・日常生活の身近にある題材の学習を通して、数学が役立っていることを知る。また、数学を新たな視点から面白さを発見し、その良さを活用する。	課題学習 出席状況、提出物 期末考査	B AC BCD
三学期	数学活用のまとめ		・1、2学期に学習した内容についてふりかえり、自らの数学力が高まったことを確かめる。	課題 課題学習 出席状況、提出物 学年末考査	D B AC BCD

学習評価（成績評価は、次の4つの観点から行います） 考査点 [70] 点：平常点 [30] 点

評価の観点	関心・意欲・態度(A) 10点	数学的な見方や考え方(B) 30点	数学的な技能(C) 30点	知識・理解(D) 30点
		数学と人間のかかわりや数学の社会的な有用性に関心をもつとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学と人間のかかわりや数学の社会的な有用性を通して、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
評価方法	・出席状況等 ・授業中の姿勢、態度	・課題学習での取組 ・定期考査	・ファイル等の提出物 ・定期考査	・課題 ・定期考査

留意点（担当者からのメッセージ）

- ◇9月中旬までは進路実現に向けた取組のうち、数学的知識や技能が必要である学習を授業の中に取り入れます。
 ◇進路目標の変更や新たな希望が生じた場合はすぐに担当者に相談してください。

【工芸科】 木工芸総合	教科書	工芸 I (日本文教出版)			
	副教材	木工の基本を学ぶ (主婦の友社)			
履修学年	第 3 学年 (木工)	履修形態	必修・選択	履修単位	4 単位

学習 (到達) 目標 (授業を通して、身に付ける力)

- ◇ 1、2 年次で学んだ知識や技法などを総合的に活用し、意図に応じて材料や用具を選択して創意工夫する能力を高める。
- ◇ 制作、実習を中心として、実用性のある作品を制作し、木工芸に関する総合的な知識と技術を身に付け、工芸の伝統と文化などの理解を深める。

学習方法 (授業の進め方や工夫点など)

- ◇ 大型加工機械などを積極的に活用し、より専門的で総合的な制作技術を身に付ける。
- ◇ 制作を進める上で、作品の造形やデザインに、独自性があるものを多く取り入れられるように工夫し、木工芸品を生活の中でより発展的に活用し、親しむ心を養う。

学習計画 (どのような内容を、どの時期に学習するのか)

学期	単元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	オリエンテーション スケッチ 灯り 文化祭用販売作品① 鑑賞	・オリエンテーション ・観察と平面表現 ・木でつくる ・卒業制作 ・鑑賞する	・資料やインターネットを使って研究し、アイデアをスケッチする。スケッチを基にデザイン画を描き、寸法や制作工程を書く。 ・用途にあった材料を選択し、行灯、文化祭販売作品を制作する。 ・作品は展示する事を考慮したものとする。	提出作品 授業態度 準備物 出席状況 鑑賞カード	ABC A A A D
二学期	文化祭用販売作品② 卒業制作① 鑑賞	・卒業制作 ・鑑賞する	・製図の授業にて作成した図面を精密に再現し、卒業制作を行う。 ・今まで学んだ技術を駆使し、最も適した手順を選択して制作する。 ・互いの作品を鑑賞し、制作過程での工夫などの意見を交換し、知識を高める。	提出作品 授業態度 準備物 出席状況 鑑賞カード	ABC A A A D
三学期	卒業制作② 自由制作 鑑賞	・卒業制作 ・自由制作 ・鑑賞する	・素地調整や、塗装の工程を行い、卒業制作の最終仕上げを行う。 ・作りたいものを自由に考え制作する。 ・制作した作品の鑑賞会を開き、意見交換を行う。	提出作品 授業態度 準備物 出席状況 鑑賞カード	ABC A A A D

学習評価 (成績評価は、次の 4 つの観点から行います) 提出作品 [60] 点 : 平常点 [40] 点

評価の観点	関心・意欲・態度 (A) 40 点	発想や構想の能力 (B) 20 点	創造的な技能 (C) 30 点	鑑賞の能力 (D) 10 点
評価の観点	材料の特性や用具の使用方法に関心をもとうとしている。木工芸や工芸の伝統と文化に関心をもち、自ら主体的に取り組もうとしている。	感性や想像力を働かせて、心豊かな発想をし、目的や条件、機能や素材の生かし方などを総合的に考え、構想を練っている。	創造的で、木工制作に必要な総合的な技能を身に付けている。制作手順や技法を吟味し、表現方法などの個性を生かし、工夫している。	様々な作品を鑑賞し、工芸や工芸の伝統と文化の理解を一層深め、その良さや味わい、美しさについて多様な視点から創造的に味わっている。
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・出欠席状況 ・準備物	・製図 ・スケッチ ・提出作品	・提出作品	・鑑賞カード

留意点 (担当者からのメッセージ)

- ◇ 安全に十分に注意し、怪我は未然に防ぎましょう。提出期限は必ず守りましょう。
- ◇ 提出期限までに卒業制作が提出されないと単位を認定しません。計画的に取り組ましましょう。
- ◇ 授業では「自ら考える」ことを大事にしています。制作では、みんなで協力し「創る喜び」や「自然と人間のかかわり」について学習しましょう。授業には作業着で参加してください。

【工芸科】		教材	製図（実教出版）		
図法製図応用		副教材	基礎製図練習ノート（実教出版）		
履修学年	第3学年（木工）	履修形態	必修・選択	履修単位	2単位

学習（到達）目標（授業を通して、身に付ける力）

<p>◇「図法製図基礎」で身に付けた技能を発展させ、より豊かな発想力・構想力を培い、創造的に表現できる能力を身に付ける。</p> <p>◇製作図、設計図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。</p>

学習方法（授業の進め方や工夫点など）

<p>◇教科書とプリントを積極的に活用し、授業を展開する。</p> <p>◇実際に使用することを想定した身近な物品や卒業制作を製図し、図面を作成する。</p>

学習計画（どのような内容を、どの時期に学習するのか）

学期	単元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	各種の製図基礎	<ul style="list-style-type: none"> 投影図 寸法記入法 製作図 観察と表現 鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 実在の様々な製品の図面を取り上げ、その特徴を把握する。 実在の建築物や木工芸品等の図面をトレースする。 卒業制作の図面を作図する。 様々な作品や制作した図面を鑑賞し、意見を交換して、理解を深める。 	提出課題・作品 授業態度 準備物 出席状況 ワークシート 小テスト	ABC A A A D A
二学期	模型 作品紹介	<ul style="list-style-type: none"> 模型制作 作品紹介用紙制作 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業制作の図面をもとに、加工しやすい材料を用いて模型を制作する。 各自が制作する卒業制作のテーマやコンセプトなどを記載した作品紹介用紙を制作する。 制作した作品を鑑賞し、意見を交換して、理解を深める。 	提出課題・作品 授業態度 準備物 出席状況 ワークシート 小テスト	ABC A A A D A
三学期	CAD製図	<ul style="list-style-type: none"> CADシステムの概要 CADシステムの構成 CADシステムの規格 CADによる作図 鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> コンピューターソフト（CAD）を使用し、簡単な製図を完成させる。 実在の様々な製品の図面を取り上げ、その特徴を把握する。 CADを用いて、実在の建築物や木工芸品等の図面を製図する。 様々な図面を鑑賞することで、製図への理解を深める。 	提出課題・作品 授業態度 準備物 出席状況 ワークシート 小テスト	ABC A A A D A

学習評価（成績評価は、次の4つの観点から行います）提出作品 [60] 点：平常点 [40] 点

評価の観点	関心・意欲・態度 (A) 40 点	思考・判断・表現 (B) 20 点	技能 (C) 20 点	知識・理解 (D) 20 点
		製図と、工芸や工芸の伝統と文化に関心を持ち、自ら主体的に取り組もうとしている。	感性や想像力を働かせて、心豊かな発想をし、図面の意味や目的、素材の生かし方などを総合的に考え、構想を練っている。	創造的で、製図に必要な技能を身に付けている。制作手順や対象物の性質を吟味し、表現方法などの個性を生かし、工夫している。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業に取り組む姿勢 出席状況、遅刻 準備物（教科書、実習用具） 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品 	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの内容

留意点（担当者からのメッセージ）

<p>◇安全に十分に注意し、怪我を未然に防ぐこと。課題提出は必ず期限を守りましょう。</p> <p>◇授業では実際に立体制作に必要な製図の能力を身に付ける事を目的としています。授業では集中して「様々な種類の製図」について学習しましょう。授業には制服で出席してください。</p>
--

【芸術科】 美術Ⅲ	教科書	美術3（光村図書）			
	副教材	使用しません			
履修学年	第3学年（美術）	履修形態	必修・選択	履修単位	2単位

学習（到達）目標（授業を通して、身に付ける力）

◇「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」の学習を基礎にして、「知識及び技能」「思考力、判断力」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱を相互に関係させながら美術の諸能力を伸ばす。

学習方法（授業の進め方や工夫点など）

◇ 教科書以外のプリントや資料も積極的に活用し、視聴覚教材を活用した授業を行う。
◇ 作品の造形やデザインに独自性のあるものを多く取り入れられるように工夫し、豊かな感性を養う。

学習計画（どのような内容を、どの時期に学習するのか）

学期	単元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	有名絵画の模写	絵画・表現 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 過去の美術作品や異文化の表現を学ぶ。 自分の好きな作家や作品を研究し、表現の工夫や美術文化を理解する。 好きな作家の作品を、鉛筆、アクリル絵の具等を使い模写する。 互いの作品を鑑賞し、意見交換をする。 	作品・課題 授業態度 準備物 ワークシート	ABC A A AD
二学期	卒業制作の為の課題探求、及び実践①	絵画・表現 デザイン 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 制作を通じて、自身の課題を探求し、解決方法を考え実践する。 中間発表で互いの作品を鑑賞し合い、意見交換を行うことで、現時点での課題を再設定する。 	作品・課題 授業態度 準備物 ワークシート	ABC A A AD
三学期	卒業制作の為の課題探求、及び実践②	絵画・表現 デザイン 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 前学期に設定した課題と向き合いながら卒業制作完成に向けた表現を探求する。 これまでの授業を通じ、作品制作の意義を考え、意見交換を行う。 	作品・課題 授業態度 準備物 ワークシート	ABC A A AD

学習評価（成績評価は、次の4つの観点から行います）作品 [60] 点：平常点 [40] 点

評価の観点	関心・意欲・態度(A) 30点	発想や構想の能力(B) 25点	創造的な技能(C) 25点	鑑賞の能力(D) 20点
評価の観点	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業に取り組む姿勢 教科書・実習道具・資料・服装などの準備・作品 ワークシート・確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 課題 アイディアスケッチ 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 課題 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 確認テスト

留意点（担当者からのメッセージ）

◇安全に十分に注意し、怪我や事故を未然に防ぐこと。作品、課題の提出は必ず期限を守りましょう。
◇授業では「考える、伝える、理解する」ことを大事にしています。制作では、みんなで協力し「創る喜び」について学習しましょう。授業の内容により体操服、作業着着用の指示をすることがあります。

【美術科】 美術課題研究	教科書	美術3（光村図書）			
	副教材	美術1（光村図書）		美術2（光村図書）	
履修学年	第3学年（美術）	履修形態	必修選択	履修単位	4単位

学習（到達）目標（授業を通して、身に付ける力）

◇ 造形的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる深く関わる資質・能力を身に付ける。

学習方法（授業の進め方や工夫点など）

◇ 教科書以外のプリントや資料も積極的に活用し、視聴覚教材を活用した授業を行う。
◇ 作品の造形やデザインに独自性のあるものを多く取り入れられるように工夫し、豊かな感性を養う。

学習計画（どのような内容を、どの時期に学習するのか）

学期	単元名	学習項目	主な学習活動	評価項目	観点
一学期	卒業制作に向けて 鑑賞会	絵画・表現 デザイン 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 卒業制作に向けて、様々な芸術作品の調査をする。 芸術作品の調査から、自分のテーマや課題を発見し、卒業制作のエスキースを制作する。 互いにエスキースを発表し、卒業制作に対する思いや考えを述べる。 	作品・課題 授業態度 準備物 ワークシート	ABC A A AD
二学期	卒業制作① 中間鑑賞会	絵画・表現 デザイン 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> エスキースをもとに作品制作を行う。 展示スペースも意識しながら、制作を行う。 中間発表で互いの作品を鑑賞し合い、現時点での課題を再設定する。 	作品・課題 授業態度 準備物 ワークシート	ABC A A AD
三学期	卒業制作② 鑑賞会	絵画・表現 デザイン 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 前学期に設定した課題と向き合いながら作品制作を行う。 外部での展示も考慮し、作品強度、展示方法も考え制作する。 互いの作品を鑑賞し、意見交換を行う。 	作品・課題 授業態度 準備物 ワークシート	ABC A A AD

学習評価（成績評価は、次の4つの観点から行います）作品 [60] 点：平常点 [40] 点

評価の観点	関心・意欲・態度 (A) 30 点	発想や構想の能力 (B) 25 点	創造的な技能 (C) 25 点	鑑賞の能力 (D) 20 点
	評価方法	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 ・授業に取り組む姿勢 ・出席、欠席、遅刻 ・教科書、実習道具、資料、服装などの準備、作品 ・ワークシート	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 ・作品 ・課題 ・アイディアスケッチ	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。 ・作品 ・課題

留意点（担当者からのメッセージ）

◇安全に十分に注意し、怪我や事故を未然に防ぐこと。作品、課題の提出は必ず期限を守りましょう。
◇授業では「考える、伝える、理解する」ことを大事にしています。制作では、みんなで協力し「創る喜び」について学習しましょう。授業の内容により体操服、作業着着用の指示をすることがあります。
◇提出期限までに卒業制作が提出されないと単位を認定しません。計画的に取り組みましょう。

【地域】 ボランティア	教材	使用しません			
	副教材	ボランティア手帳			
履修学年	第3学年	履修形態	任意	履修単位	増加1単位

学習（到達）目標（授業を通して、身に付ける力）

- ◇体験的・実践的な活動の中で、社会の一員であることを自覚し、互いが支え合う社会の仕組みを理解する。
- ◇地域貢献等を通し社会奉仕の精神を涵養し、自らのあり方、生き方を求め自己実現をはかる一助とする。

学習方法（授業の進め方や工夫点など）

- ◇ 単位認定対象活動
ボランティア活動同意書・活動願が出され校長が認めた活動
 - a) ボランティアクラブ・生徒会で行う活動
 - b) 学校に依頼があり、校長の認めた事業
 - c) 個人・他団体で行うボランティアで校長が単位の認定を認めたもの

学習計画（どのような内容を、どの時期に学習するのか）

学期	学習項目	主な学習活動
一学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアクラブ ・生徒会活動 ・学校に依頼があり、校長が認めた事業 ・個人、他団体で行うボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティア ・十津川村主催行事 ・災害ボランティア ・ボランティアに関する研修 （長期休業期間の活動も含む）
二学期		
三学期		

学習評価（成績評価は、行いません。）

評価方法	<p>①ボランティア同意書・活動願をボランティアクラブ顧問に提出</p> <p>②活動後、現地担当者からボランティア手帳に証明印またはサイン受領 （生徒会、ボランティアクラブの活動の場合は、担当教員が証明）</p> <p>③ボランティア手帳をボランティアクラブ顧問に提出 →認定台帳に認定単位時間（活動時間）を記入 →手帳は生徒に返却、認定台帳は教務部保管</p> <p>④年度末までに35単位時間（1750分）を満たせば、成績会議において教科「地域」、科目「ボランティア」として1単位を認定。</p>
------	---

留意点（担当者からのメッセージ）

- ◇教員が引率しない活動については、自己の責任で行う。
- ◇ボランティアに参加する際には必ずボランティア手帳を携帯する。
- ◇服装等、準備物は個人で準備する。